

第6期福岡市男女共同参画審議会
第2回男女平等教育・地域支援部会(平成27年7月24日)

「福岡市男女共同参画基本計画(第2次)」の
総合評価について

1 男女共同参画基本計画（第2次）の進行管理・実施状況評価の方法

(1) 進行管理・実施状況評価の考え方

① 目的

福岡市男女共同参画基本計画（第2次）（計画期間：平成23年度から27年度）の進捗状況を確実に把握し、その評価を行うことにより、計画の実効性を確保し、評価を次年度以降の施策に反映させ、男女共同参画社会の実現に向けた諸施策を推進する。

② 評価の対象及び方法等

【評価の対象等】

区分	対象	評価者	摘要
一般評価	一般評価事業 事業実施担当課が実施する各事業（約300事業）	事業実施担当課 毎年度、「達成度」について自己評価を実施 ↓ 審議会に報告 ↓ 次年度以降の事業に反映	○判定区分は、「重点評価」と同じ。
重点評価	重点評価項目 特に重要と認められる項目（7項目）（P3参照）	審議会（3部会を設置） 毎年度、継続的に評価を実施 ↓ 次年度以降の施策に反映	【判定区分】 【達成度】 A：90%以上（十分達成している） B：70%以上（ある程度達成しているが一部課題が残る） C：50%以上（達成が不十分であり改善を要する） D：50%未満（達成にはほど遠く見直しを要する） 【今後の方向性】 継続（計画どおりに実施する） 充実（取組を更に充実する） 拡充（新たな取組を追加する） 再構築（取組の抜本的な見直しを行う）
総合評価	基本目標 第2次基本計画に規定する6つの基本目標	審議会 全ての評価内容を踏まえ、次期計画策定過程で評価を実施（平成27年度） ↓ 第3次基本計画に反映	

基本目標1：男女平等意識が浸透した社会を目指します

審議会意見

固定的性別役割分担意識を解消し、多様な生き方を選択でき、性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できる社会を目指し、「男女共同参画推進センター・アミカス」や「区役所」「市民センター」「公民館」等において、広く市民を対象とした男女共同参画に関する意識啓発のための講座・講演会の実施、学習機会の提供などの広報・啓発が行われた。

また、男女平等意識が浸透した社会を目指し、学校教育において、男女平等教育副読本の活用や男女混合名簿の採用を進めるとともに、新たに中学生向け出前セミナーを実施するなど、男女平等意識を高める取組が進められた。

しかしながら、「男は仕事，女は家庭を守るべき」という固定的な性別役割分担に否定的な考えの人の割合は63.5%と少しずつ増えているものの、賛成する人が35.0%と固定的性別役割分担意識は未だ根強く残っている状況である。

男女共同参画を広く浸透させるため、男性や次世代を担う子ども，若年層等に対する啓発を積極的に行うなど、あらゆる人が男女共同参画の必要性を共感できるよう情報発信を進め、市民的広がりをもった広報・啓発を進める必要がある。さらに、世界の動向に関する情報提供や国際理解を深めるための学習機会の提供など、国際的視点に立って施策を進める必要がある。

基本目標6：地域において男女が共に支えあい、安心して暮らせる社会を目指します

審議会意見

男女共同参画が広く市民に浸透していくには、最も身近な暮らしの場である地域における啓発活動が重要である。平成23年度に創設された福岡市独自の男女共同参画週間「みんなで参画ウィーク」に合わせた取組が、各校区の男女共同参画協議会等を中心に市内のほぼすべての校区で行われている。また、アミカスにおいては、男女共同参画推進サポーターや寸劇隊の派遣、人材情報の提供などの地域の取組への支援が行われた。

地域の女性リーダー育成や地域の様々な団体役員への女性の参画を働きかけるなど、地域における女性の活躍を促進する取組が行われた。

一方で、地域における諸団体の長等への女性の就任率は、増加を続けているものの、平成27年7月現在●%であり、女性の参画は十分とはいえない状況である。

男女共同参画が地域に浸透していくために、従来の組織の枠組みを超えて、広く男女共同参画の視点をもって地域の様々な活動が展開されるよう、支援を一層充実していく必要がある。

重点評価項目に対する審議会意見一覧(平成23年度～25年度実績)

1 重点評価項目	男女平等教育の推進						
2 基本目標	1	男女平等意識が浸透した社会を目指します。					
3 数値目標、参考指標	(指標) 男女平等教育副読本活用率:小学校向け「はらっば」						
	初期値	目標値	実績				
	91.8%	100.0%	95.1%	93.8%	96.6%	-	-
	(平成22年度)	(平成27年度)	(平成23年度)	(平成24年度)	(平成25年度)	(平成26年度)	(平成27年度)
	(指標) 男女平等教育副読本活用率:中学校向け「わたしらしく生きる」						
	初期値	目標値	実績				
43.5%	50.0%	32.8%	33.8%	39.1%	-	-	
(平成22年度)	(平成27年度)	(平成23年度)	(平成24年度)	(平成25年度)	(平成26年度)	(平成27年度)	
23 年度 実績	評価	(1) 達成度			(2) 今後の方向性		
		C			拡充		
24 年度 実績	評価	(1) 達成度			(2) 今後の方向性		
		B			充実		
25 年度 実績	評価	(1) 達成度			(2) 今後の方向性		
		B			拡充		
23 年度 実績	<p>【審議会意見】</p> <p>次代を担う子ども達に対する男女平等教育の推進や教育関係者に対する研修等については一定の評価はできるが、中学校における副読本の活用や男女混合名簿の採用については、取組みが不十分である。教育現場の実態把握と原因の調査分析を行い、副読本の活用と男女混合名簿の採用について、効果的に取組んでいただきたい。</p> <p>また、教育関係者への研修の一層の充実を図るとともに、心と体が著しく成長する時期である中学生に対する意識啓発について、出前講座等を通じて積極的に取組んでいただきたい。</p>						
24 年度 実績	<p>【審議会意見】</p> <p>中学校における副読本の活用や混合名簿の採用については、依然として取組みが不十分である。副読本の積極的な活用を管理職に働きかけるなど、教育現場の実態を踏まえた効果的な男女平等教育の取組みを進めるとともに、近年の社会状況の変化を反映した中学生用副読本の内容の見直しについても検討していただきたい。</p> <p>また、中学生向け出前セミナーの新規実施による男女平等教育の推進や教育関係者に対する研修等については、中学生アンケートの結果などから有意義であったと一定の評価ができる。思春期の中心的時期である中学生が男女平等意識を学んで身に付けることは、その後のキャリア形成に大きな影響を及ぼすので、今後とも取組みを充実していただきたい。</p>						
25 年度 実績	<p>【審議会意見】</p> <p>中学校における副読本の活用や混合名簿の採用については、依然として取組みが不十分である。中学生用副読本については、分かりやすく使いやすい内容に改訂していただきたい。混合名簿の採用については、中学校に積極的に働きかけていただきたい。</p> <p>また、中学生向け出前セミナーについては、中学生アンケートの結果などから有意義であったと評価ができる。男女共同参画について学び、性別にとらわれない職業選択について考えることは大事な機会であるため、中学校在学中に全員が受講できるよう取組みを充実していただきたい。</p> <p>さらに、男女平等教育については、道徳教育との連携も含めあらゆる場面で取り組めるような新たな方策を検討していただきたい。</p>						

重点評価項目に対する審議会意見一覧(平成23年度～25年度実績)

1 重点評価項目	地域における男女共同参画推進活動の支援						
2 基本目標	6 地域において男女が共に支えあい、安心して暮らせる社会を目指します						
3 数値目標、参考指標	(指標) 「みんなで参画ウィーク」の取組みを実施した校区数						
	初期値	目標値	実績				
	23校区 (平成23年度)	146校区 (平成27年度)	23校区 (平成23年度)	120校区 (平成24年度)	138校区 (平成25年度)	136校区 (平成26年度)	- (平成27年度)
23年度実績	評価	(1) 達成度			(2) 今後の方向性		
		B			充実		
24年度実績	評価	(1) 達成度			(2) 今後の方向性		
		B			充実		
25年度実績	評価	(1) 達成度			(2) 今後の方向性		
		B			充実		
23年度実績	<p>【審議会意見】</p> <p>23年度に福岡市独自の男女共同参画週間を創設するとともに、その愛称とシンボルマークを制定し、市民により親しみやすい形で、地域における男女共同参画の推進に取り組んでいることは評価できる。24年度が本格実施になることから、全校区で取組みを進めていただきたい。</p> <p>また、地域活動のあらゆる場面において男女共同参画の視点が活かされるためには、指導力のあるリーダーが求められる。そのために、新たなリーダーの発掘やリーダー育成事業を充実するとともに、地域における諸団体の長等への女性の参画促進を図っていただきたい。</p>						
24年度実績	<p>【審議会意見】</p> <p>「みんなで参画ウィーク」の本格実施の年であった24年度は、キックオフ・イベント「男女協サミット」の開催やコーディネーター派遣などの支援事業により、120校区で男女共同参画推進に向けた取組みが行われたことは評価できる。引き続き、全校区での実施に向けて支援を行うとともに、取組内容の充実を図っていただきたい。</p> <p>また、政策・方針決定過程への女性の参画拡大に向けた国の目標「2020年30%」を踏まえ、地域における意思決定過程への女性の参画を促進するため、自治協議会役員や公民館長への女性登用に向けて、市から強く働きかけを進めていただきたい。</p>						
25年度実績	<p>【審議会意見】</p> <p>「みんなで参画ウィーク」に取り組む校区数が増えていることは評価でき、さらに、全校区での実施に向けて支援を行っていただきたい。校区における取組内容に男女共同参画の視点が反映されているか確認するとともに、自治協議会全体の取組みとして実施されるよう努められたい。</p> <p>また、政策・方針決定過程への女性の参画拡大に向けた国の目標「2020年30%」を掲げて、地域における諸団体の長等への女性の参画を促進するよう、市から働きかけていただきたい。</p> <p>さらに、公民館において年1回は男女共同参画講座を実施するよう市から働きかけるとともに、公民館館長や職員に男女共同参画の必要性について理解を深めてもらうための研修を実施していただきたい。</p>						